

1 年間の棚卸 (たなおろし) をしてみよう

第 11 期『耕人塾』も残すところ 2 回となりました。今年度はコロナ禍のために中止や縮小せざるを得なかった活動もありましたが、教学委員の工夫と塾生の意欲的な参加のお陰で充実した活動ができました。第 10 期でも紹介しましたが、福沢諭吉の「学問のすゝめ」に「心事の棚卸 (商品の在庫管理や評価のこと、転じて実践したことの評価)」があります。その意識を紹介します。

人が生きている様子を見ていると、心で思っている以上に案外悪いことをし、心で思っている以上に案外愚かなことをし、心で計画しているよりも案外成功しないものである。また、人生を設計している人でも「生涯の内、または十年の内にこれを成す」という人は多いが「三年の内、一年の内」という人はやや少なく、「一月の内、今日のうちに」という人はまれである。期限を長く決めて、今やるべきことをやらないで事業に成功した人を私は知らない。少なくとも一年または一か月の終わりに、何を成して何ができなかったのかを棚卸する必要がある。「生まれてから今日に至るまで自分は何事を成してきたか、今は何事ができるか、今後何事をすべきか」と、自らわが身を点検することが大切である。

「心事の棚卸」に倣い、私の 1 年間の振り返って『耕人塾』実践事項「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」についての棚卸をしてみたいと思います。

①「あいさつ」：家庭内でも隣近所でもできるだけ自分から挨拶するように心がけていますが、家庭内ではまだまだです。隣近所の人達とのあいさつはかなりうまくいっていると思います。家庭内は 40 点、隣近所は 80 点で、トータルの自己評価は 60 点です。家庭でのあいさつを改善し、相手の心に響くあいさつをするにはどうしたらよいか考えています。

②「清掃」：家での役割分担はトイレ掃除だけだったのですが、妻が週 3 回ほど働いているので、掃除機をかけたり食器を洗ったりするようにしています。若いころと比べたら 100 点満点だと思うのですが、周りからは「当たり前だ」と言われているので、自己評価は 65 点です。来年度はさりげなく、感謝の心が表れるような清掃の仕方を考えたいと思います。

③「ゴミ拾い」：ここ数年、1 万個を目標に朝のゴミ拾い散歩をしています。週 1, 2 回の早朝散歩をしながらゴミ拾いをした結果、11/6 で 11,860 個 (昨年の同期は 15,760 個) になり、目標を超えることができましたので、自己評価は 90 点です。日の出前の清々しさを味わうことができ、得した気分になります。来年はもっと楽しくゴミ拾いをする方法を工夫したいと思います。

実践事項のコンセプトは「無理せず、楽しく、さりげなく」です。棚卸をしてみると福沢諭吉が言っているように、案外達成していないことに気付かされます。「今は何事ができるか、今後何事をすべきか」これからも諭吉の言葉を大切にしながら実践していきたいと思っています。

「人生で最も大事なものは何か」(致知：特集追悼稲盛和夫から)

「令和 4 年 8 月、京セラを創業し、KDDI を立ち上げ、日本航空を再建した稲盛和夫氏が 90 歳で亡くなった。稲盛氏は 86 歳の時のインタビューの最後に、『人生で一番大事なものは何か』と問われ、次のように答えている。『一つは、どんな環境にいても真面目に一所懸命生きること。自分が自分を一つだけ褒めるとすれば、どんな逆境であろうと不平不満を言わず、慢心せず、今目の前に与えられた仕事に、それがどんな些細な仕事でも、全身全霊で打ち込み努力してきたこと、もう一つは、利他の心。皆を幸せにしてあげたいと強く意識し、生きていくこと』稲盛氏が 86 年をかけて掴んだ『人生の大事』である」

人生の苦難を乗り越えてきた稲盛氏の「どんな環境でも真面目に一所懸命生きること、利他の心を大切にすること」という言葉を自分の人生にどう生かしていくか考えています。